

第4号様式（第10条関係）

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	第6回武蔵村山市市民協働推進会議
開 催 日 時	平成26年9月29日（月）午後6時 ～ 8時
開 催 場 所	中部地区会館401大集会室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：渡辺龍也、鴻田臣代、瀬口圭志、北口良夫、本間由美子、前田啓子、比留間毅浩、山田行雄 欠席者：中村政義、高橋茂明 （事務局）協働推進課長、協働推進課主査、協働推進課主事
議 題	議題1 武蔵村山市協働事業提案制度の提案事業の第二次審査について 議題2 採択すべき事業の選定について 議題3 その他
結 論 （決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。）	議題1 協働事業提案制度提案事業の一次審査について 提案団体によるプレゼンテーションを1団体実施した。 議題2 採択すべき事業の選定について 事業番号26-2、26-3、26-4、26-6、26-7を採択すべき事業とし、優先順位は26-2、26-3、26-6、26-4、26-7とする。 議題3 その他 （第二次審査評価報告書について） 事務局で各委員の意見を取りまとめて後日各委員に送付し、内容の確認を行う。その後の修正については、座長及び副座長に一任する。 （次回の議題について） 来年度の募集要綱等について、委員の意見を反映させた改正案を事務局で作成する。 （次回会議の開催日程について） 第7回会議は12月下旬又は平成27年1月に開催する。詳細な日程については、事務局で各委員と調整し改めて通知する。
審 議 経 過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。） （発信者） □印：座 長 ○印：委 員 ●印：事務局 △印：提案団体 ▲印：協働担当課	議題1 武蔵村山市協働事業提案制度の提案事業の第二次審査について 事業番号26-7 団体名：武蔵村山市ハンドボール協会 事業名：ハンドボルトップアスリート等派遣指導事業 -提案団体によるプレゼンテーション ○ 現在の会員数は。 △ 市内中学校、高校のハンドボール部、社会人チーム等で構成され、会員は120名程度である。その中で本事業を運営するスタッフは5名である。 ○ 会費はあるのか。 △ 会費はない。

- 協会の自己財源はないということか。
- △ そのとおり。
- 講師謝礼は1校の実施につき支払われるのか。
- △ そのとおり。1校あたりの指導時間は、4時間を上限としている。
- 今後、補助金に頼らないで事業を継続していくための展望は。
- △ スタッフや学校の教員が、子どもたちへ指導できるようにしていく。
- トップアスリートの指導によりスタッフのスキルアップも図り、実施後のフォローを行っていくということか。
- △ そのとおり。
- 昨年実施した2校へのフォローは。
- △ 現在のところできていない。昨年の事業が好評であったので、今後フォローを行っていききたい。
- 今年度実施の4校へのフォローは。
- △ 学校にハンドボールゴールを設置し、ボールの提供をした。授業に取り入れられるよう検討している。
- 実施校はどのように決めるのか。
- △ 校長会で希望を募り、実施校を決めている。
- すでに実施済みの学校でもう一度実施する可能性もあるのではないか。
- △ そのとおり。
- 予算書に簡易ゴールの購入費が計上されているが、事業実施後の保管場所は確保できているのか。
- △ 確保できている。
- 実施後のフォローとは具体的にどのようなことを行うのか。
- △ 具体的な方法は未定であり、今後学校の教員と相談していく。授業に取り入れるように、教員に対して指導講習会を行うことを検討している。
- 今年度実施してきて、どのような成果が出ているか。
- △ 具体的な数字等の成果はないが、ハンドボールに興味を持つ子供が増えていると感じている。
- 協働事業の実施について、協働担当課からも意見を伺いたい。
- ▲ ハンドボールの競技人口を増やしたいという協会の思惑と、国体の開催を契機にハンドボールを本市に根付かせたいという市の思惑が合致した良い事業であると感じている。一方で、他の競技をしている子供達にも同様の事業を実施してあげたいという思いもある。
- 都内で唯一日本リーグの試合を誘致したとあるが、協会が主体となって開催したのか。
- △ そのとおり。今後も本市で開催できたらと考えている。10月5日のスポーツ都市宣言記念式典の後に、プロを呼んでハンドボール体験会を開催する予定である。
- 今後団体が発展していくためには、財源を確保し、団体の基盤を固める必要がある。
- △ 東京都ハンドボール協会からの補助金を検討している。多くのスポーツ団体には会費が無く、財源の確保は難しいのが現状である。
- 本市のハンドボール協会は、東京都ハンドボール協会に加入している団体の中でどれくらいの規模なのか。
- △ 他の団体の会員数等については把握していない。
- 補助金を利用して事業を行う場合、補助金がなくなっても運営を継続していけるかが審査のポイントの一つであり、団体は長期的

	<p>な展望を持つ必要がある。事業の実施により一時的に盛り上がりを見せても、継続できないのでは意味がない。</p> <p>△ 団体として発展のための努力は続けていくが、行政の支援も必要だと考えている。</p> <p>□ 協働の役割分担は適切にできているか。</p> <p>▲ 学校との日程調整は協働担当課が、事業の運営は団体が、それぞれ適切に役割を果たしていると感じている。</p> <p>議題2 採択すべき事業の選定について</p> <p>事業番号26-2、26-3、26-4、26-6、26-7を採択すべき事業とし、優先順位は26-2、26-3、26-6、26-4、26-7とする。事務局で採点表の評価理由をまとめ、提案事業審査報告書を作成する。</p> <p>議題3 その他</p> <p>(提案事業審査報告書について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 審査結果を取りまとめた報告書を事務局で作成し、委員の皆様を確認していただき、11月中旬に市長に報告する。 <p>(次回の議題について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 次回会議では募集要綱等の改正案について、事務局で作成して示したい。 □ 企画書に、達成目標の欄を入れた方が良い。 ○ 人件費と報償費を合わせて6割未満としてはどうか。 ○ 協働相手となる課の意見も載せられるようにした方が良いのではないかな。 □ 企画書の将来展望の欄は、中長期計画とした方が良い。事業の継続性と団体の今後をしっかりと考える必要がある。 ○ 企画書の項目と、審査項目を合わせた方がわかりやすい。 ● 委員の皆様の意見を反映させた改正案を次回示す。 <p>(次回会議の日程について)</p> <p>第7回会議は12月下旬又は平成27年1月に開催する。詳細な日程については、事務局で各委員と調整し改めて通知する。</p>
--	---

<p>会議の公開・非公開の別</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 公開</p> <p><input type="checkbox"/> 一部公開</p> <p><input type="checkbox"/> 非公開</p> <p>※一部公開又は非公開とした理由</p> <p style="text-align: right;">傍聴者： 8 人</p> <p style="font-size: 2em;">[</p>
--------------------	---

